

令和6年度の取り組み

- 農作業安全係を設置

【目的】

- 事故の背景を詳しく知ることで、自分たちの実態に合った、勉強会や啓発資材を作成する。

【背景】

- 農作業安全に関する知識・意識付けは行った
- 依然として農作業事故が無くない現状
- 事故の状況や作業内容は“個人” “農協” “地域” によって違う

本当に効果的な農作業安全啓発も “個人” “農協” “地域” によって違う

令和6年度の取り組み（勉強会）

- 講師：農研機構
- 事例から見た「生活と経営を支える」事故防止策
- 一緒に作業をする機会の多い女性（女性部）に声かけ
- 同じ作業でも、男性目線、女性目線で違う防止策が生まれた
- JA共済連で貸出を行っているVRゴーグルを使用し、事故を疑似体験
- 農作業事故を「他人事から自分事」にする機会



令和6年度の取り組み（6月事故調査）

- 同行：農研機構、北海道農作業安全運動推進本部

【事故の背景】

労災報告

小豆の収穫作業中に、収穫機に詰まった茎を取り除こうとしたところ刈刃によって負傷した。

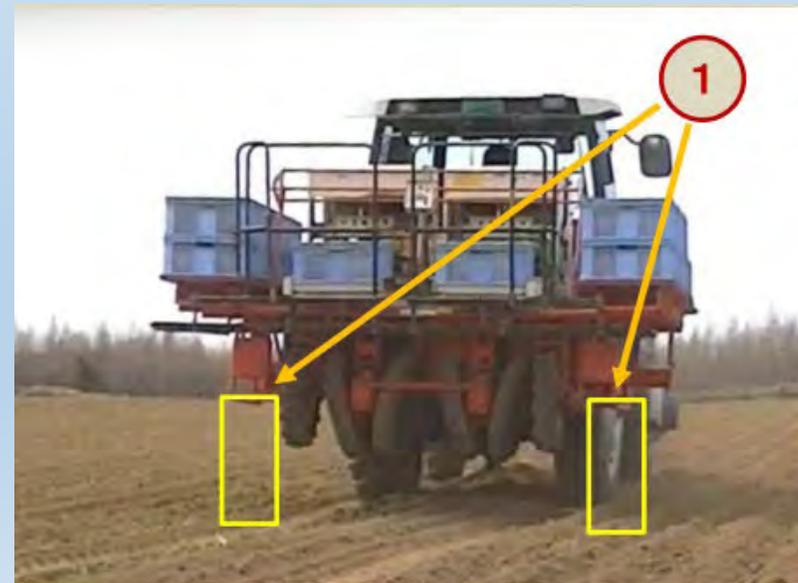
詳しい状況

雨が続けており、収穫が遅れ、次の作業も迫っていた事による焦り。その年の天候により、茎が伸びてしまった事も重なり、刈刃付近に少し動いては詰まり、取っては詰まり、作業が進まない状況。除去作業もエンジンや刃を停止すべきだが、回っていた方が取りやすい為、焦りと効率から安全への意識が欠けていた。



令和6年度の取り組み（6月事故調査）

- 事故調査、聞き取りは機械を取り囲み行った。
- 心と事故に関係のない機械の話となった。
- てん菜移植機に苗や土が詰まった時、取り除く為に機械の下に潜りこむ必要があり、機械が落ちてこないか不安を抱えている。
- ①の位置に安全スタンドがあれば、安心して作業を行うことができる。



令和6年度の取り組み（地区青協）

- 調査に同行したホクレン北見支所職員により、地区青協にて同様のグループワークを行いたい。
- 農作業機について、現場の声をメーカー等に届ける事も農作業安全に繋がる。
- 危険要望1
- 当青年部と同様のてん菜移植機についての意見
- 危険要望2
- 自動操舵を無人で行うことが危険

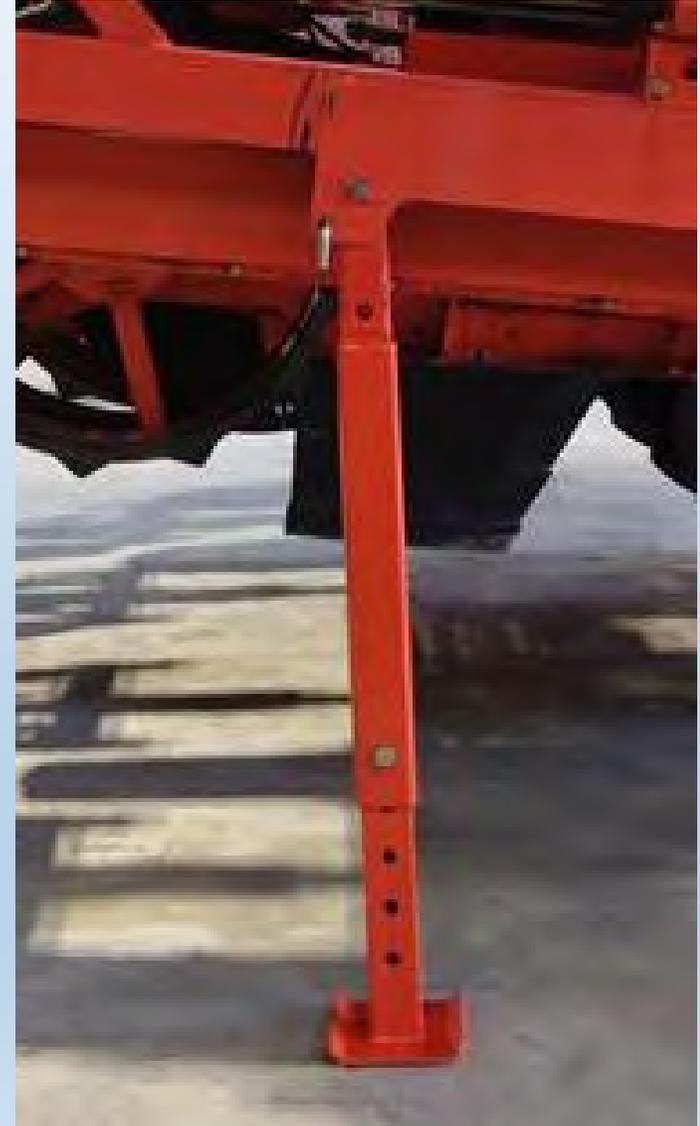


令和6年度の取り組み（地区青協）

- ホクレン油機サービス職員

「生産者目線の貴重な意見・要望を得ることができた。さっそくてん菜移植機で動いてみよう。」
すぐに改良がスタート、試作機ができた。

- 継続して現場の声をメーカーへ届けられる体制作りを行いたい。





危険

回転中、回転軸に触れたり、近づいたりしないで下さい。巻き込まれて死傷する可能性があります。必ず取り外し、安全カバーは必ず取り外さず固定して下さい。使用前に必ず取扱説明書を読んでから作業を行なって下さい。

Koyo

253766
WPP001



フェーズ理論

- KY（危険予知）活動やヒューマンエラーに関わる考え方
- 人間には5段階の意識があり、製造業や建設業を始め、安全活動に取り入れられている
- 指差呼称（指差確認）
- 作業前に作業対象や危険物等に対し、指を差し、声に出して確認すること
- 危険感受性を高めて、意識をフェーズⅢに高めることができると言われている

| フェーズ | 意識の状態 |
|------|--------|
| 0 | 無意識・失神 |
| I | 意識ボケ |
| Ⅱ | リラックス |
| Ⅲ | 明晰 |
| Ⅳ | 過緊張 |



令和6年度の取り組み

KTC（京都機械工具株式会社）視察研修

工場見学担当者

「構内はフォークリフト等の車両が走るのので、シマシマの歩道の上を歩いてください。道を渡る際は左右指差し確認を行って横断してください。」

- 2017年に工場内に安全ラボを設置。
 - 安全への意識を会社・工場が高めている。手を失う等のケガが多かった。



厚生労働省（担当部署）意見交換

- 農業と他業種の違い。（会社経営と個人経営の違い）
- 農業学校など農業への入り口段階での安全教育に力をいれてはどうか？



①家族や仲間と貼ったシールの方が、違和感が有り、意識が向く

②農業現場には作業前に朝礼等での危険を共有する機会がない

③指差確認による意識レベルの向上

“家族”や“仲間”と危険を共有する事が大切！



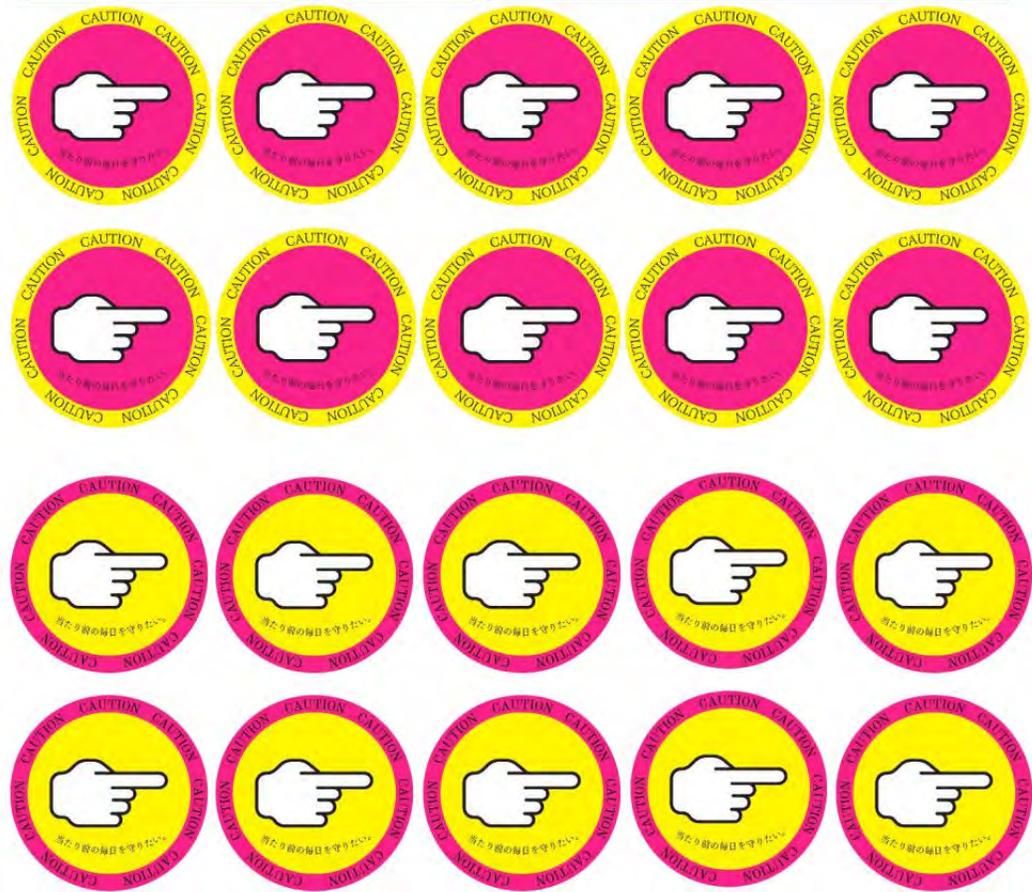
～「当たり前」を守るために～

農作業事故は“他人事”ではありません！！

もしも、農作業事故を起こしてしまったら。大切な家族や仲間が“被害者”や“加害者”になってしまう。いままで誰もが見聞き、経験したことがあるはず。そんな悲しい事が起きないように、事故を“自分事”と考える。そのために、“家族”“仲間”“従業員”と「どこが、何が危ないか」一緒に確認し、安全ステッカーを貼ってみませんか。

危ないところを皆で考える 「ここ！」という場所に皆でステッカーを貼る 場所ごとに対策を確認。いつも皆で安全に作業！

危険の共有が事故防止の第一歩です！ J A オホーツク 稲走青年部



ステッカー全戸配布



JAオホーツク網走青年部

【北見】オホーツク管内のJAオホーツク網走青年部は本年度、農作業安全の意識の浸透を積極的に進めるため、部内に「安全係」を設置し、活動を強化した。安全係や役員が手分けして各営農集団長を巡回し、農作業安全を呼びかけるステッカーを配布。JAの423戸全戸に届くよう依頼した。



ステッカーを配布する青年部役員ら（大空町東藻琴で）

なくせ！農作業事故

貼ろう！安全ステッカー

営農集団長訪ね配布

同青年部は活動の基
本方針に「当たり前
の毎日を守るため
に」を据えて、農
作業安全の強化
に力を入れている
。昨年12月中旬
から下旬にかけて
、55営農集団
長を訪ね、ステ
ッカーを手渡した
。配ったステッカー
はイラストが得意
な女性部員がデザ
イン。A4判カラ
ー刷りで600枚
作製した。1枚当
たり16枚ステッ
カーがある。青
年部三役が「確
認OK?」と呼ば
ける図柄で、「指
差しステッカー
」として機械の
危険箇所に貼る
。黄色やピンク
の色合いが目
立たせた。「農
作業事故を起



作製した農作業安全ステッカー

してしまつたら、
大切な家族や仲
間が被害者や加
害者になつてしま
う。「事故を自分
事と考える。その
ために家族、仲
間、従業員と一
起に確認し、安
全ステッカーを
貼ってみませ
んか」などのメ
ッセージを添
えた。訪問先
の一つ、大空
町東藻琴末広
地区の10戸
で構成する第
48営農集団
には森竜太郎
役員6人が訪
ねた。後藤
満晴集団長
にステッ
カーを手渡
し、「目に
付く場所や危
険箇所を貼
って、農作
業安全の意
識を高めて
ください」と
呼びかけた。
後藤集団長
は「若い世
代の率先した
運動で、み
んなが意識
して行動す
ることにな
っていくと
思う。集
団内一戸
ずつに手
渡して、
青年部
みんなの
思いを
しっかり
伝えたい
」と感謝
し、激励
した。森
部長は「
農業者
自身が
危険箇
所を考
え、作
業機に
貼るこ
とで、
さらに
安全を
意識で
きる。目
立たな
い活動
だが、
大きく
広がり
たい」と
力を込
める。